

IV 運動障害学生支援のためのアセスメント

プロセスに関する研究

1 はじめに

運動障害学生に対する入学時の大学支援では、学生の多様な障害状況に応じ、支援ニーズの把握から速やかな支援の実施に至るシステムの構築が求められる。我々は入学後の支援をより計画的かつ円滑にすすめるため、2008年度より、入学時の支援ニーズ把握のためのアセスメントツール開発を行っている。本年度は、前年度に作成されたアセスメントシート試案2の適用と、入学が決定した学生に対し、本人・保護者、高校担当者と大学内の教員、学生ボランティアスタッフが連携・協力し、どのように情報収集を行い、支援計画の立案・実行を進めていったらよいか、そのプロセスについて事例的検討を行った。

2 方法（対象者）

対象者は、運動障害を有し、自走（一部他走）の車椅子移動を要する入学者1名を抽出した。

3 結果と考察

本学では、入試の際、障害のある受験者の場合には、本人の希望により事前相談を行っているが、入学決定者については、その情報をもとに、アセスメント項目のうち、障害の程度、高校での修学状況（必要な介助と、支援者は誰かなど）、日常生活の状況をおおよそ把握することが可能である。また、今回の対象者は推薦入学者であり早期に入学が決定していたため、実際に大学や希望する大学宿舎を見学し、改修すべき点な

どについて、関係者と事前打ち合わせを行うことができた。さらに 2009 年度は運動障害のある学生の入学数が少なかったこともあり、支援スタッフである教員が出身高校に出向き、修学状況を確認することができた。運動障害のある学生の場合、改修や機器購入のニーズが個別に異なっていることが多いので、このようなプロセスを踏んで、入学前にアセスメント（一次アセスメント）および支援計画の立案・実行を行うことは重要であると思われた。しかし、前期・後期入試のように、入学決定から授業開始までの時間が短い場合、さらに運動障害のある入学予定者の数が多い場合、同様の準備が可能かどうかについては、今後検討する必要がある。

また、入学式直前では、想定される時間割をもとに配慮すべき点について担当教員との打合せを行うとともに、実際に学内移動を行い、バリアの確認と対策について細かく打ち合わせを行った。以上のとりくみをもとに、アセスメントシートを見直した結果、障害の程度、高校での修学、日常生活の状況以外にアセスメントが重要な項目は、以下の4点に整理された。

- (1) 改修・配置変更のニーズ
- (2) 機器購入・設置のニーズ
- (3) 履修・授業における支援のニーズ
 - ①履修上の配慮
 - ②教員による授業場面の配慮
 - ③学生による授業・学習場面における支援
 - ④教員による試験の配慮
- (4) 移動支援のニーズ

今回は、このうち、一次アセスメントの段階において、(1) (2) について早めに対応すべき点を把握することができたが、その他の点についても、できる限り事前に個別のアセスメントを行う工夫が必要であると考えられた。